

# 道水中谷水産が描く、 持続可能な未来

vol.3

高知県 道水中谷水産

## ● 持続可能な水産業の未来を高知から — 水産資源を守り、価値を高める 函館・道水グループの挑戦

水産物の卸売や冷凍冷蔵事業、水産加工品の製造販売を手掛ける道水グループ(北海道函館市)。事業エリアは日本にとどまらず、北米や地中海、アフリカにまで及び、2011年からは新たに国内でマグロの養殖事業に取り組む。事業エリアも業容も広げる中、高野元宏社長は「これからは中小企業もサステナビリティの取り組みこそが重要になる」と強調する。少子高齢化、環境対応など目まぐるしく自社グループを取り巻く状況が変化する中、成長戦略のカギとなるのがSDGsだ。

### About Us 企業概要

高知県宿毛湾、長崎県五島列島においてクロマグロ(本マグロ)やブリの養殖を行う道水中谷水産。同社は、北海道函館市に拠点を構える道水グループの1社である。年間最大約15,000尾のクロマグロを出荷し、天然ものに負けない旨みと風味を追求。2021年「全国養殖クロマグロ品評会」で最優秀賞を受賞するなど、高い品質と安定した供給で定評がある。





クロマグロ(本マグロ)生糞。直径50m、深さ25mで潮通しの良い沖合に設置

### ● 食のフロンティア企業であれ

道水(北海道函館市)は、1947年に創業。93年に函館に本社を移転する際に現在の社名に変更し、国指定の水産物集出荷機関として、日本の食卓を支えてきた。

主力商品はマグロ。モロッコでは定置網漁を展開するほか、マルタ島やメキシコでは捕獲した魚を育てて出荷する畜養ビジネスを手掛ける。北海道発のグローバル企業として品質の高いマグロを育てるユニークな取り組みからも、グループの企業理念「食のフロンティア企業であれ」を実践していることがうかがえる。

国内では高知県大月町の恵まれた海洋環境をいかして、クロマグロの養殖に取り組んでいる。「黒潮本まぐろ」のブランドで年間に約1万5000匹を出荷。21年には「全国養殖クロマグロ品評会」で最優秀賞を受賞している。

日本は天然クロマグロの世界一の消費国だ。ただ、90年代から資源量は減少しており、2014年には太平洋クロマグロが絶滅危惧種に指定された。近年は資源回復が進み(21年にクロマグロは準絶滅危惧種に引き下げられている)、資源量も直近のピークである90年代半ばに近づきつつあるが、予断は許さない状況が続く。

こうした中、資源の保護と同時に進むのが

クロマグロの「養殖」だ。

70年代から日本ではマグロの養殖が始まり、最近の出荷量は天然のマグロの漁獲量を上回っている。道水グループでは養殖した魚を鮮魚として出荷するだけでなく、切り身などに加工して販売している。北海道の企業が道外で養殖魚の生産から加工までを一貫して手掛けるのはこれまでになかった珍しい取り組みだ。高野社長は「生産だけでなく食品加工や販売なども手掛ける『6次産業化(※)』で付加価値を高めることで安定した生産と供給につなげたい」と語る。

※6次産業化  
農林漁業者(1次産業)が、農産物などの生産物のもとも持っている価値をさらに高め、農林漁業者の所得(収入)を向上していること

### ● サステナビリティが水産業にも不可欠な時代に

道水グループは環境問題でも「フロンティア企業」を実践する。「食のフロンティアであり続けるためには、サステナビリティが非常に重要な時代になっています。特に環境負荷の低減は不可欠で海を守らなければ私たちの事業も危うくなりかねません」(道水 高野社長)。

グループ内でマグロ養殖を手掛ける道水中谷水産(高知県大月町)は、2022年8月には環境にやさしい漁業や養殖業を認証する

「マリンエコラベル」を取得。ブリの養殖場では海をできるだけ汚さないように生き餌ではなく、食べかすが出にくい練り餌を使用する。クロマグロ養殖でも生き餌から練り餌に替える取り組みに着手している。

また、生け簀の浮き素材を2025年までに発泡スチロールからポリエチレン製への完全切り替えを目指す。発泡スチロールは老朽化による欠けや割れが海洋に流れ出る可能性があり、素材を変えることで海洋汚染を未然に防ぐ。

餌の保管時に乾燥や荷崩れを予防するために使うラップも25年までに再生可能なビニールに変更する。再生可能なビニールを使うことで1日40パレット相当のごみの削減になるという。

労働環境や雇用への目配りも忘れない。



2021年度「全国養殖クロマグロ品評会」で最優秀賞 受賞



道水中谷水産 代表取締役社長 唐澤薫氏

道水中谷水産は企業理念に「人を大切に  
する会社・人を育てる会社」掲げるほど「人」の重視を徹底している。

「水産業界は3Kの職場ともわれがちで、人材が集まりにくい業界です。日本社会は少子高齢化で、特に地方は東京一極集中の影響を受け、どう人材を確保するかはこれまで以上に課題となります。職場環境を改善すると同時に地域活性化のために地元採用も力を入れています」(道水中谷水産、唐澤社長)。

若年層の採用は事業拠点の高知県と長崎県で地元の高校から毎年新卒を採用している。今後10年間で計20人を採用予定だ。インターンシップも強化し、同じく10年で計100人の受け入れる方針を掲げる。

雇用の継続にも力を入れる。65歳時点で再雇用を希望する従業員には作業内容を考慮しながら必ず再雇用を実施する。働きやすさも充実させ、船舶免許など業務上必要な資格取得の費用も補助している。

### ● すべては意識改革とモチベーション向上のため

同社では、環境対応や採用体制の見直しのほかにもBCPの策定や人事評価制度の刷新など急ピッチで体制整備が進む。具体的な制度づくりは企業にとって決してハードルは低くないが、商工中金が提供するポジティブ・インパクト・ファイナンス(PIF)の存在が大きい。

PIFはSDGs(持続可能な開発目標)の三つの柱(環境・社会・経済)への企業の前向きな取り組みを評価し、支援する枠組みだ。環境負荷低減と企業の収益向上で社会面、環境面、経済面でKPI(重要業績評価指標)を設定することで取り組みを促進させる狙いがある。

「PIFへの取り組みは社員のモチベーションをあげたい、意識を改革したいというのが大きな理由です。外部から評価されるこ

とで、自社の方向性が間違っているのか間違っていないかを誰もが確認できます。対外的にも多くの人に自社の取り組みが認識され、社員の意欲向上にもつながります。社会が大きく変わる中、中小企業も変わらなければいけません」(道水 高野社長)。

道水グループにとってSDGsは成長戦略といっても過言ではない。養殖マグロを食卓に届けることは、美しい海を守ることもつながる。人々の健康を守れば、地域社会や、持続可能な地球環境も実現する。「食のフロンティア企業を目指して」。高野社長は何度もグループの企業理念を強調する。業界に大きな変化の波が押し寄せる中、世界をそして水産業の未来を見据える。



道水 代表取締役社長 高野元宏氏



若年層の採用に力を入れる



## 「お客さまの成長こそが商工中金の成長」 商工中金 函館支店 友松 貴則さん

道水グループはホームページに「全社員の幸福を追求すると同時に社会の発展に貢献する」という理念を掲げておられ、PIFと親和性があると考えていました。また当初より、今後の企業活動には環境への配慮や社会への影響に関する取り組みが必要不可欠だという認識を高野社長と共有していました。

サポートに際しては現状の取り組みを確認した上で、同グループの理念を念頭に食糧、水産資源に関する目標に加えて、地域貢献、社員教育面に関する目標を設定しました。

今後は「お客さまの成長こそが商工中金の成長である」ことを忘れずに、連携機関や全国の商工中金のお取引先と御縁結びをすることも含め伴走支援してまいります。適切な管理環境のもと生育された美味しいマグロの情報を発信し、新たなビジネスを創出したいです。



「情報を発信し、新たなビジネスを創出したい」と友松さん(右)

### Information

株式会社 道水

道水中谷水産株式会社(道水グループ)

[本社所在地]

〒788-0352

高知県幡多郡大月町

大字橋浦椎ノ浦山475-12

[TEL]

0880-77-1820

<https://www.dohsui.co.jp/company/kochi/>



## 道水中谷水産、商工中金の取り組みをさらに知りたい方に

日刊工業新聞社の運営するニュースサイト「ニュースイッチ」や、動画で道水中谷水産の取り組みをさらに深掘しています。詳しくは下記からご確認ください。



当金庫では ポジティブ・インパクト・ファイナンスを通して

### ▶ YouTube

商工中金公式チャンネル  
PIF(ポジティブ・インパクト・ファイナンス)とは?

PIFについての説明を  
わかりやすくまとめています。



PIF支援事例「高知県・道水中谷水産」  
道水中谷水産 株式会社  
クロマグロ(本マグロ)やブリの養殖を行っている「道水中谷水産」

### ▶ YouTube

商工中金公式チャンネル  
PIF支援事例 高知県 道水中谷水産

道水中谷水産の事例を紹介しています。



ニュースイッチ  
NEWSWITCH

日刊工業新聞社ウェブサイト  
“ニュースイッチ”にも掲載中!

ニュースイッチとは、「ものづくり」「テクノロジー」「キャリア」を中心とした経済・産業のニュースをより親しみやすく発信するサイトです。



### PURPOSE

# 企業の未来を支えていく。日本を変化につよくする。

### MISSION

## 安心と豊かさを生み出すパートナーとして、ともに考え、ともに創り、ともに変わりつづける。

日本の未来を担う中小企業の皆さまとこの変わりゆく時代を  
乗り越えるため、私たちは「パーパス」を作りました。

商工中金

<https://www.shokochukin.co.jp/>

道水中谷水産が描く、持続可能な未来 vol.3 2023年7月20日発行 [編集] 日刊工業新聞社 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL:03-5644-7000  
ニュースイッチ×商工中金 [発行] 株式会社商工組合中央金庫 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-10-17 TEL:03-3272-6111

